

川根振興協議会設立の経緯と結成の趣旨

1 背景

川根地域は高宮町の北西部に位置し、19の行政区から成る旧川根村の集落である。

昭和30(1955)年代までは稲作、和牛、林業、漁業や養蚕などを主体とした純農村であった。昭和40(1965)年代からの経済の高度成長ともなつて工場へ働きに出る兼業農家へと変わり若者は都会へ転出し、地域の過疎・高齢化は急速に進み、在郷の住民も故郷から転出している人にとつても将来への不安は年毎に増幅していった。

2 川根振興協議会設立の経緯

昭和46(1971)年4月3日、地元町議会議員の呼びかけで議会報告会が開かれた際、地域住民から、過疎化がすすむなかでの「学校問題、道路問題、江の川架橋辺地集落の救済、老人憩いの家建設」等々の地域課題が提起された。

その後、故藤本隆司氏が呼びかけ人となり、熊高五郎・竹田幸男・徳物 清の諸氏を中心に協議が始まり、その後、武田法真氏も交えて川根地域の課題にどのように取り組むかについて議論が重ねられた。地域の諸課題を解決するためには、川根地域の住民が一丸となつて自治組織を立ち上げることが必要であるという認識で一致し、当面は組織づくりへの取り組みが始まった。

昭和47(1972)年2月6日、高宮町大字川根2161の1番地川根農協ホールに於いて設立協議会が開かれ、名称「川根振興協議会」(愛称せせらぎ会)が結成された。新しく誕生したせせらぎ会は「会員相互の連帯によって、地域

の発展と活性化をはかり、明るい地域づくり」を目的としている。次いで2月19日第1回振興協議会が開かれ第1章から第7章に及ぶ規約を制定し、生産基盤の確立、地理的環境の整備、住民福祉の増進と地域の伝統文化の伝承・育成等に住民の総力を組織化し、地域の発展向上をめざして、各部の活動を始めた。

昭和47(1972)年7月、集中豪雨による大災害が起こり、川根地区は壊滅的な被害を受け過疎にいつそうの拍車をかけた。しかし「住民が心まで過疎になってはいけない」と、この災害復旧に自分達で出来ることをし、過疎と高齢化の流れをくい止めようと振興会援助班を編成して被災家屋の片付けや消毒作業など災害復旧活動に活躍した。

以前から行政へ強く請願してきた「老人憩いの家」建設課題は農山村振興対策事業としてすすめられ昭和49(1974)年4月「川根生活改善センター」として竣工し、ここを拠点にして決意を新たにして活動を展開した。

住民相互の連帯と活力あふれる地域づくりを推進するためには、川根地域の全住民が参加する地域振興活動でなければならないという気運がたかまってきた。

昭和52(1977)年10月に委員総会を開いて規約改正を行い、川根全戸加入の振興協議会として生まれ変わり地域住民の総意・総力を結集して活動する組織体制を整えたのである。



小掛の滝(愛称「せせらぎ会」の由来となった)